

1 研究主題

佐倉市の先覚者の残した功績と現在を結び付け、
自ら課題を見出し、地域に対する郷土愛をもつことができる児童の育成
～佐倉順天堂記念館を題材とした地域学習を通じて～

2 主題設定の理由

(1)現代社会の要請から

現代社会は、人工知能 (AI)、ビッグデータ、Internet of Things(IoT)、ロボティクスなどの先端技術が高度化してあらゆる産業や社会生活に取り入れられた、Society5.0 時代が到来しつつあり、社会の在り方そのものがこれまでとは「非連続」と言えるほど劇的に変わる状況が生じつつある。このように急激に変化する時代の中で、我が国の学校教育には、一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成することが求められている（「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（中央教育審議会答申）より）。

本単元で取り扱う「佐倉順天堂記念館」は、天保14（1843）年に開設され、創設者である佐藤泰然のもとに多くの医学を志した者が学び、近代医学の発展の功績を残した歴史的建造物である。明治時代は、江戸時代の鎖国制度からの脱却・開国を通じて、文明開化が起こり、社会生活が大きく変わった時代である。変化の激しい現代社会と近い環境でもあり、明治期に活躍した佐藤泰然を中心とした順天堂の医者たちが佐倉市の人々のために尽力した功績について知り、佐倉市に対する郷土愛をもつことができる児童を育成するために、主題を設定した。

(2)学習指導要領から

本実践は、学習指導要領第3学年の目標及び内容を受けて設定している。

社会的事象の見方・考え方を働かせ、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 身近な地域や市区町村の地理的環境、地域の安全を守るための諸活動や地域の産業と消費生活の様子、地域の様子の移り変わりについて、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、調査活動、地図帳や各種の具体的資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 社会的事象の特色や相互の関連、意味を考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを表現する力を養う。
- (3) 社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養う。

この目標を受けて、白銀小学校の学区にある歴史的建造物「佐倉順天堂記念館」への調査活動を行い、調べたことをポスターにまとめる学習を行う。さらに、これまでの学習を振り返り、学習したことを確認するとともに、学習成果を基に、佐倉市に対する愛情を養うために、本単元を設定した。

(3) 印教研研究主題から

よりよい社会の実現に寄与する「生きる力」を培う社会科学習
～自ら課題を見だし、自らの考えを表現できる児童生徒の育成を目指して～

印教研研究主題にある「よりよい社会の実現に寄与する「生きる力」を培う」とは、変化の激しい時代の中で社会のために自分が何をできるのか主体的に考え、実践していくことだととらえる。これを受け、本実践では、同じく激動の時代であった明治時代に活躍した佐藤泰然をはじめとした佐倉市の先覚者を取り扱うことで、人々のために尽くすとは何かを知り、これからの将来に向けて、自分のお手本となる人物を見つける活動を設定した。こうした学習を通して、自ら課題を見だし、目標に向かって粘り強く取り組むことができる児童を育成できると考える。

(4) 先行研究から

地域教材や人材を活用して、社会的事象と自らの関連を扱った実践はこれまで何度も行われてきた。今回は、印教研の過去の実践で提起された内容を踏まえ、主題を設定した。

- ・令和元年度 大隅教諭実践【自ら学習の課題を見出し、追究することができる児童を育成する社会科教育の在り方】
- ・令和3年度 坪井教諭実践【主体的・対話的な学習を通して、歴史的事象に対する自分の考えをもつことができる児童の育成】

上記の実践では、学習に対する意欲を高めるために、ゲストティーチャーや地域教材(佐倉連隊)が活用されていた。本実践では、児童の学習を深めるために佐倉順天堂記念館への校外学習を行い、さらにゲストティーチャーによる佐倉順天堂の講話・質疑応答を行う。また、第3年年における「市の様子」と「市のうつりかわり」の単元を2サイクルで構成することで佐倉市の地理的環境を捉えた上で、明治期の佐倉順天堂の学習を行っていく。

第3学年は、初めて社会科を行う学年のため、単元の時数を十分に確保することが必要である。そのため、社会科だけではなく、道徳や総合的な学習の時間と関連させ、単元を教科横断的に設定し、全3サイクルで構成する。

以上のことから、佐倉市の先覚者と現在を結び付けることで児童が学習に対して関心をもち、郷土愛を育むことができると考え、主題を設定した。

(5) 児童の実態から(3年1組 33名)

本学級の児童は、初めて習う社会科に意欲的で、約83%の児童が社会科に進んで取り組んでいる。また、ほとんどの児童が故郷である佐倉市を好きである。しかし、実際にどこが好きかという質問に対しては、「給食がおいしい」や「公園がたくさんある」など自分の生活圏内にある知識しかない。また、佐倉学については、ほとんどの児童が学習していないと回答していた。ただし、食育の観点から行っている「津田仙メニュー」については児童の認知が高く、津田仙が西洋野菜を広めたことは知っていた。

このことから、本学級の児童は、身近な実生活の中にある事象についてとても関心が強く、習熟度が高いが、自分の実生活の外にあるできごとについては関心が低く、あまり興味を示さないことが課題である。

社会科学習においても、普段家族とよく行く「ふるさと広場」や「草笛の丘」の話にはとても興味をもつ。しかし、2年生の佐倉学教材である「先崎のけやき」については、どこにあるのかもわからず興味を示さなかった。このことから、より児童の実生活に近い教材を選定することで児童が興味をもち、意欲的に学習ができると考えた。それが、白銀小学校の学区にある「佐倉順天堂

記念館」である。身近な地域教材であるからこそ興味をもち、学習することで自ら課題を見だし、地域社会に対する郷土愛を育むことができると考え、主題を設定した。

3 主題について

(1) 佐倉市の先覚者の残した功績と現在を結び付けとは

本実践では、「好学進取」と「成徳作用」という2つの言葉から先覚者の功績に着目し、現在と結びつけることとする。1つめの「好学進取」とは、「失敗を恐れず、新しいことに挑戦すること」である。佐藤泰然は、患者の体力や当時の麻酔のリスクを考え、無麻酔で難しい手術を数多く行っている。そこには、当時最新の技術をもっていたオランダの医学を学び、知見を広めていたからである。この精神を知り、自分自身も恐れずに挑戦していこうと粘り強い気持ちを育てることができると考えた。2つめの「成徳作用」とは、「人のために学んだことを生かすこと」である。文字通り、佐倉順天堂の医者たちは最先端の技術を学び、人々のために尽力してきた。この背景を調べ、理解し、表現する活動を行うことで、よりよい社会を作るためにはどうしたよいかと児童が考える一助になる。

(2) 自ら課題を見だし、地域社会に対する郷土愛をもつことができるとは

本実践では、第一次「市の様子」、第二次「市のうつりかわり」の学習を経て、第三次では「自分の目標となる先覚者探し」の学習を行う。その中で、自分が得意なことや頑張っていることと明治時代の先覚者の生き立ちを結び付けて考える。そうすることで、自分が困難なことに出会ったときに、先覚者の言葉や行動を参考に問題を解決しようとする心情を育てることができるとはならないかと考える。また、より多くの明治期に活躍した先覚者を知ることで、同じようにこれからの佐倉市のために自分も貢献できるようなことをしたいという郷土愛を育むことができると考え、主題を設定した。

4 教材について

(1) 「佐倉順天堂」と医師

佐倉市は、歴史のある建造物が多くあり、明治期に活躍した先覚者を多く輩出している。さらに、ふるさと広場の風車・チューリップ畑などオランダ由来の物があり、蘭学との繋がりもある。本単元では、身近な公共施設である「佐倉順天堂記念館」を題材に取り上げる。順天堂には、江戸時代後期から明治期にかけて日本の発展に貢献した佐藤泰然がいる。佐倉に「順天堂」を開設したのは、江戸の蘭方医佐藤泰然だが、順天堂は単に西洋医学を教える医学塾ではなかった。当時としては画期的な西洋医術を施す「総合病院」の機能を有し、医学生を指導すると共に、実際に多くの外科患者を受け入れ、西洋医学を基本とした手術や医療を行っていたのである。

泰然から教えを受けた塾生の中からは、明治天皇の侍医頭を務めた佐藤尚中、ドイツに留学し日本人初の「ドクトル」の称号を受けた佐藤進、軍医総監になった松本順など、明治期以降の日本の医学界をリードした医師たちがいた。

児童や私たち日本人にとって身近にある「医院(クリニック)」は、「かかりつけ医」として、身近な存在である。この「主治医」制度が社会に定着していることで、私たちは安心して健康な暮らしが営めると言っても過言ではない。

児童の中には、通院を余儀なくされている者や事故やけがなどで入院をした経験を持つ者も多い。こうした医療制度が整えられたのは、国の動きだけではなく、順天堂などの民間医療に携わった医師たちの努力と働きかけが大きいのも事実である。

順天堂は、創設当時から患者と直接向き合う治療(臨床)を重んじ、医師と患者が直接かかわることで信頼関係を築き、難しい手術も無麻酔で行ってきた。それは、手術をする意思も受ける患者も相当の苦しみを味わうことになる。それが、「命を守ること」だと信じ、お互いの信頼関係の中で行われたことが、現代の医療ともつながっている。また、佐藤泰然や順天堂の意思は、医

学を極めることではなく、庶民に医術を施すことにあった。それが、後に佐藤尚中による「医院」設立の運動に関わってくる。第二代順天堂堂主を務めた佐藤尚中は、明治天皇の侍医頭を辞すると、自ら東京に「東京順天堂医院」を開設し、多くの庶民に医術を施した。それが、今につながる「医院(クリニック)」の始めである。

(2) 佐倉学との関連

佐倉の先覚者を扱うことは、学習指導要領の目標や内容に沿うものであると同時に、佐倉学の趣旨でもある「ふるさと意識」を醸成するものである。佐倉には、「好学進取」と「成徳作用」の言葉が残されているが、まさに、本単元の順天堂の医師たちにも通じる言葉である。「好学進取」とは、「新しいことに恐れず挑戦する」という意味で捉えており、順天堂の医師たちが、新しい西洋医学を学び、新しい技術を習得し、それを自分の故郷の人々のために使おうと努力した姿を想像させる。また、「成徳作用」は、「学びことの意義」を説いた言葉であり、堀田正睦公は、新しい藩校に「成徳書院」と名付け、その大切さを諭した。この当ても、学問を立身出世の道具と見る風潮があり、それを佐倉藩はきつく戒めた。また、「作用」は、「用を作(な)す」と読み、身につけた学問を社会のために役立てるよう諭した言葉である。

実際、佐倉の先人たちは、明治以降、産業、文化、医学、教育、軍事、政治などのあらゆる分野で活躍したが、それは飽くまで「日本の人々の幸福」のためであったことは間違いない。順天堂の医師たちも、政府や軍で高い地位を得ても、体制が整えばすぐに身を引き、個人医院を経営している。

たとえば、泰然の子である松本順は、陸軍軍医総監を退官すると東京に蘭鑄医院を開き、患者たちに牛乳の引用や海水浴を広めた。尚中の跡を継いで東京順天堂医院の院長となったドクトルの佐藤進は、野口英世の才能を惜しみ、北里柴三郎を紹介し、医学者になる道を開いた。尚中の塾生だった浜野昇は、国会議員となり、今につながる学校医制度を設けた。

他にも多くの先人が各分野で活躍したが、だれもが、「成徳作用」の精神を忘れることはなかったのである。本単元でも道徳科と併せて指導することで、先人たちの思いをさらに深く気づききっかけになればよいと考えている。

5 研究の目標

第3学年の「身近な地域や市区町村の様子」と「市の様子の移り変わり」の学習を連続して取り組むことで、佐倉市の成り立ちを横軸(地理的要因)と縦軸(歴史的要因)から総合的に学習することで、児童の理解がより深まり、自らの課題を見だし、郷土愛を育む指導法の有効性について、実践を通して明らかにする。

6 研究の内容と方法

- ア 児童が佐倉市の先覚者の功績と現在を結び付けることができる指導法
／児童の変容の分析(ノート・アンケートの記述)
- イ 自らの課題を見だし、地域社会に対する郷土愛を育む指導法
／児童の変容の分析(ノート・アンケートの記述)
- ウ 第3学年の地域学習における地域素材の教材化
／学区探検での調査活動、人材活用

7 学習のアウトライン

		学習内容	時数
第一次	市の様子	【市の様子・オリエンテーション】 ○佐倉市はどのような位置にあるか予想したり、実際にある場所を話し合う。	社会1
		つかむ ○佐倉市の土地利用についてどのように利用されているか予想して話し合う。 ・田んぼが多い。・駅がある。人がたくさん住んでいる。・公園が多い。 ○なぜ、ふるさと広場には、風車があるのか。また、チューリップフェスタは行われる理由について考える。	社会1
		調べる ○「わたしたちの佐倉市」に付属している白地図に調べたことを書き込む。 ・印旛沼の周辺には田が多い。 ・佐倉市の南側には、工業団地がある。 ・駅の周りには住宅が多い。	社会4
		深める ○調べたことを深めるために、白地図に色を塗り、分布がわかりやすいように工夫する。	社会2
		まとめる ○白地図からわかることを調べ、表現することができる。	社会2
第二次	市のうつりかわり	つかむ ○風車やチューリップなどからオランダと深いかかわりがあることを知り、それがなぜかを考えることができる。 ○「佐倉順天堂記念館」について学区にあることを知り、「佐倉順天堂」の学習を行う見通しを立てる。	社会1
		調べる ○「佐倉順天堂記念館」へ見学を行い、昔と今の医療器具の違いを比較しながら、調べることができる。	社会4 (事前事後指導含めて)
		深める ○ゲストティーチャーから話を聞き、理解を深めることができる。 ○話を聞いたことをもとに、「佐倉順天堂」について内容を整理する。	道徳1 社会1
		まとめる ○調べたことをポスターにまとめることができる。 ○家庭で保護者に向けて発表を行い、その内容を振り返る。	社会4 社会1
第三次	佐倉市の先覚者を調べよう	つかむ ○明治期に活躍した佐倉市の偉人の中から一人選んで発表することを確認し、学習の見通しを立てる。 ○香川松石について、佐倉学の副読本を活用して知ることができる。 ○堀田正倫について、佐倉学の副読本を活用して知ることができる。	社会1 道徳1 道徳1
		調べる ○選んだ先覚者について図書室や佐倉市のホームページを活用して詳しく調べることができる。	総合4
		深める ○同じ先覚者を調べた友達同士で話し合い、調べた内容を確認することができる。	総合2
		まとめる ○調べた内容をポスターにまとめることができる。 ○調べたことをクラスの友達に発表することができる。	総合4 社会1

8 研究仮説と手立て

【仮説1】

「佐倉順天堂記念館」での調査活動を軸として学習過程を工夫すれば、佐倉市の先覚者の功績と現在を結び付けて捉えることができるようになり、地域社会に対する興味・関心をもつことができるだろう。

手立て① 「佐倉順天堂記念館」を軸として、複数単元を貫く学習問題を設定する。

「第3学年の最初の単元である「学校のまわり」の学習において、白銀小学校のまわりにある公共施設の1つとして紹介し、関心を高める。さらに、「市の様子」の単元では、ふるさと広場の風車やチューリップ畑がオランダと関係することを伝え、佐倉市とオランダの繋がりには、「佐倉順天堂」が関係していることを示し、「順天堂の医者たちとわたしたちの市には、どのような関係があるのだろうか。」という、複数単元を貫く学習問題を設定する。複数の単元を貫く学習問題を設定することで、児童が理解し、表現するための時間が十分に確保できると考えた。

手立て② 地域教材・人材を活用することで興味・関心をもたせる。

「佐倉順天堂記念館」は、学区にあるが、ほとんど佐倉市について学習していない3年生の児童は、「佐倉順天堂記念館」の存在を知らない児童が多い。そのため、調査活動を通じて、地域のことを知るための手段として「佐倉順天堂記念館」を活用できることを理解することで、進んで調査活動を行おうとする児童を育成することができる。また、ゲストティーチャーを招いて、より詳しく知ること、自分たちが住む佐倉市は昔の人々の思いがあり、現在に繋がっていることが理解できると考えた。

【仮説2】

古くから残る佐倉の教えである「好学進取」、「成徳作用」を児童の視点として活用すれば、自らの課題と地域社会を結び付けて、地域社会に貢献しようとする郷土愛を育むことができるだろう。

手立て① 「好学進取」と「成徳作用」を視点として、ポスターにまとめる活動を行う。

「佐倉順天堂記念館」での調査活動について、ただ調べるだけでは、3年生の児童にとって難しく抽象的な活動となってしまう。そこで、「好学進取」と「成徳作用」という言葉の意味を教え、それを視点として活用する。こうすることで、児童は佐倉市の先覚者がどのような挑戦をしたか、人々のためにどのようなことしたか意識して調べることができる。さらに、調べたことをポスターとしてまとめる。まとめたことを、発表し合い友達同士で活動を深め合う。これまで学習したことを踏まえて、佐藤泰然をはじめとする順天堂の医師たちが佐倉市に広めた医療制度が現代にもつながり、予防接種や医院での問診が行われていることを知り、佐倉市は周りの市町村に比べ、医院の数が多いことを理解することができる。その功績を理解した上で、自分は佐倉市のために何ができるか考えようとする郷土愛を育むことができると考えた。

手立て② 交流する機会を多様に設ける。

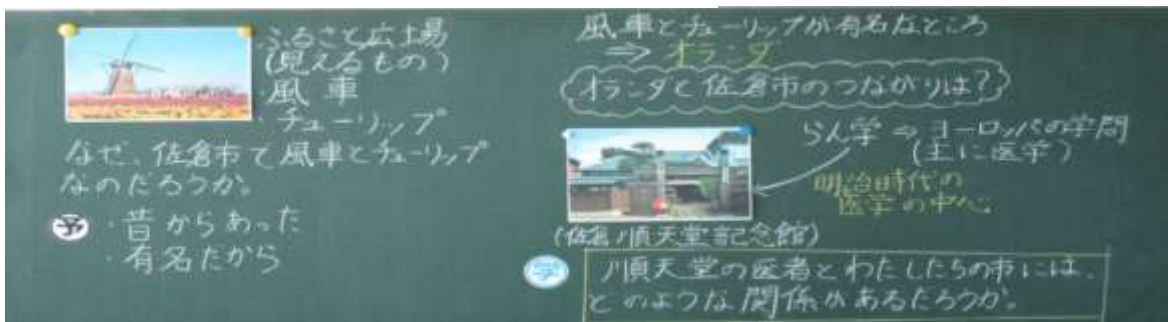
交流する機会を多様に設けることでどのように伝えればよい考えることができる。また、学習のまとめとして、学校全体に向けて活動を発表する場を設定する。誰かに見せるという相手意識をもたせることで自己満足の学習でなく、対話的な学習となると考えた。さらに、見てもらった人からどのような所が良かったかコメントをもらうことで児童の学習の励みとなる。この学習を通じて、佐倉学とはどのようなものかを学校全体に知らせることで、白銀小学校の児童全体が佐倉市について関心をもてるようになると考えた。

9 仮説の検証と授業の実際

【仮説1】

手立て① 「佐倉順天堂記念館」を軸として、複数単元を貫く学習問題を設定する。

「市の様子」の単元において、にふるさと広場を取り上げ、なぜ風車とチューリップがふるさと広場にはあるのか児童に考えさせた。初めは情報がなく、興味がない様子だった児童も地図帳でオランダの有名な物として風車とチューリップがあることを知り、興味をもつことができた。また、佐倉市は昔からオランダとの繋がりがあったことを児童は知ることができた。それは友好の印であり、何がきっかけで繋がりができたのか興味をひくことができた。さらに、学区の中に関連する施設があることを知り、驚く児童も多かった。



手立て② 地域教材・人材を活用することで興味・関心をもたせる。

「佐倉順天堂記念館」への校外学習に対して、初めはどのような場所かわからず想像もできなかったため、意欲がなかった。しかし、実際に行くことで、学習に対する意欲が上がり、もっと調べたいと思う児童が増加した。また、先生の話や資料だけでは理解できなかった内容も見学を通して調べたことについてはよく理解できていた。また、ゲストティーチャーを招いた授業でも一生懸命質問を考え、たくさん質問をして学ぶ姿が見られた。



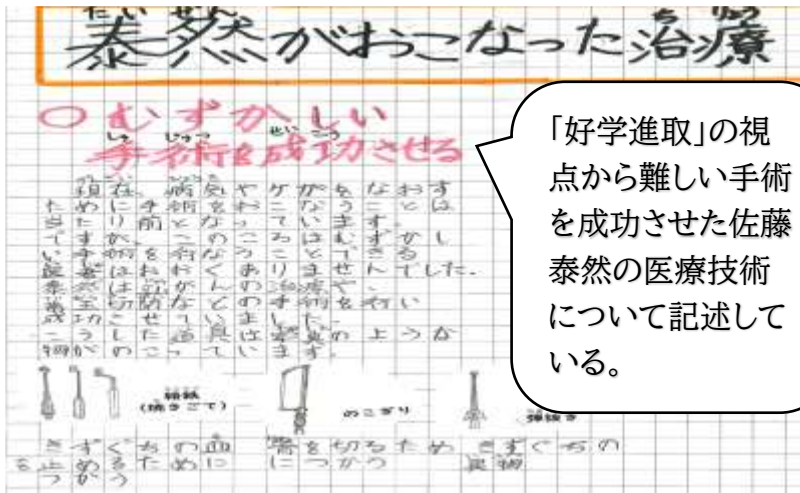
順天堂には行ったことがあるんですけど、しゃかいに
きりかてて全く、怪しいファミリーがわが家に来て
行った後の自分
三年生になってしゃかいがあかすいたのてよくあがり
ました。お父さんの正式な医師になるまで(10年かかった)知(り)10年

行くまは、お父さんと一緒だったけど、お父さんが
のちにはいーたりたかとなってきた。お父さんに
もっといきたいとおもった。



さしは、もうね先生が
ていと思ひました。何で、それ
はもうね先生さんおんにかい
ていし、しじつのはりは、お
教えてくれた。T.すかひ
た。お父さんのこと

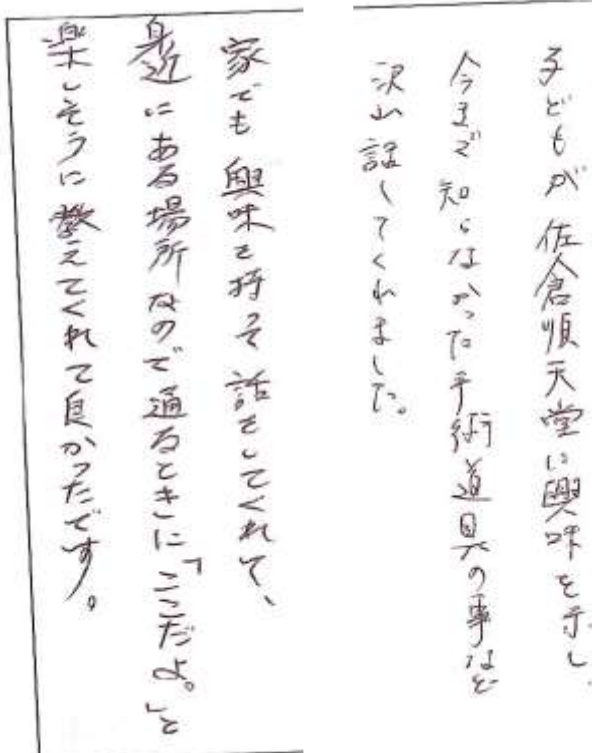
手立て① 「好学進取」と「成徳作用」を視点として、ポスターにまとめる活動を行う。



ポスターにまとめる活動では、「好学進取」と「成徳作用」の視点を設けることで佐藤泰全や順天堂の医師が何に挑戦したのか、人々のために何をしたのか明確にすることができた。調べたことを生かして、ポスターとしてまとめることができた。さらに、視点を与えることで資料不足を補うために自ら調べようとする姿を見ることができた。

手立て② 交流する機会を多様に設ける。

交流する機会として、6年生の総合的な学習の時間「先人の心を知ろう」の発表を聞く時間を設けた。6年生が詳しく調べた内容に驚き、自分の作品を見直す姿も見られた。他学年との交流を行うことで、発表の仕方や見る側の視点を知ることができ、他者に伝えるためにどうしたらよいか考えることができた。また、6年生が調べたきっかけについて話をしてくれたため、自分たちはどうだろうかと振り返ることができた。



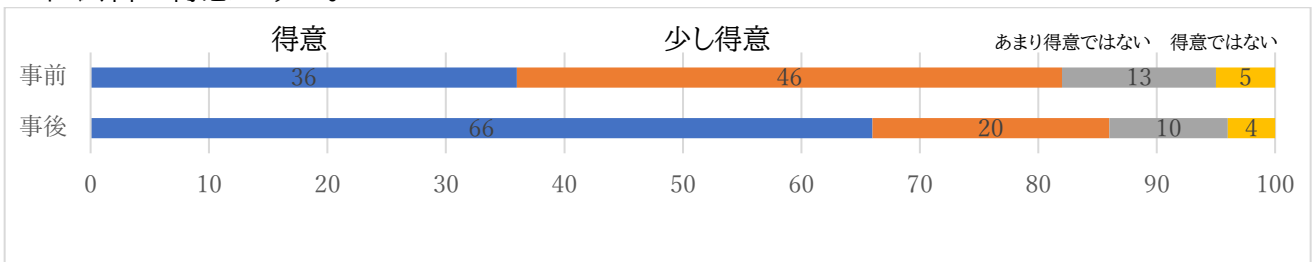
学習のまとめとして保護者に向けて家庭で発表する学習も行った。その中で、日常的に「佐倉順天堂記念館」についての話をするようになったり、休日に通う児童の姿があったりする様子が見られた。保護者からも見学して実物を見る学習について好意的に捉えられていた。

また、全児童が見ることができる場所に掲示し、他の学年の児童にも関心をもってもらえるような内容を考えることができた。

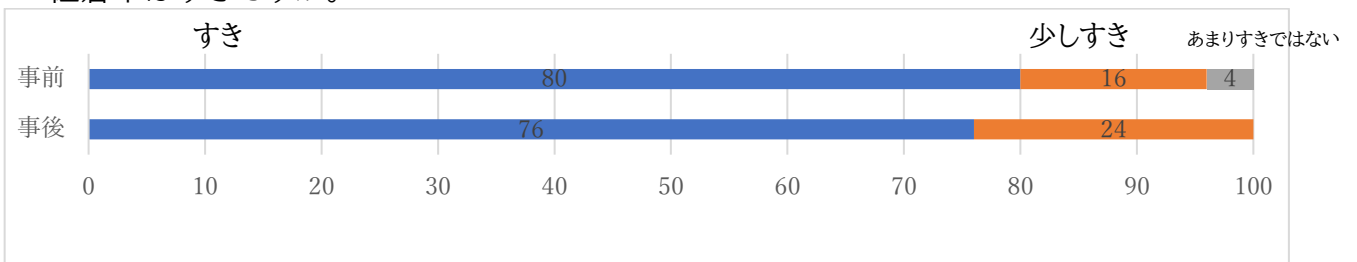


【学習の事前・事後による児童の変容】

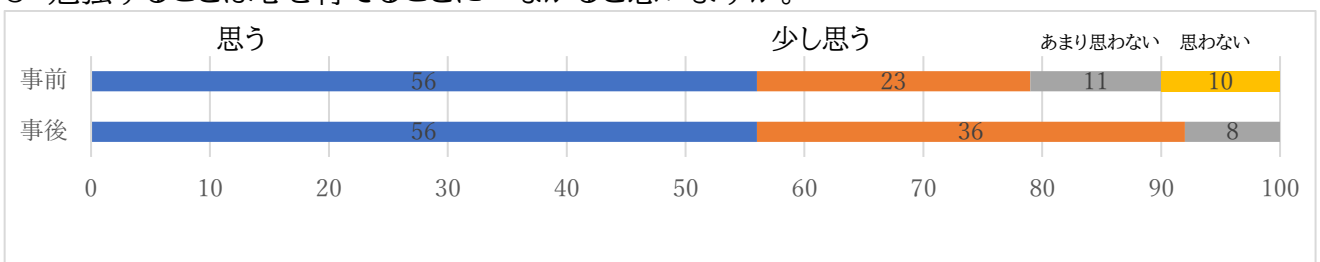
1 社会科は得意ですか。



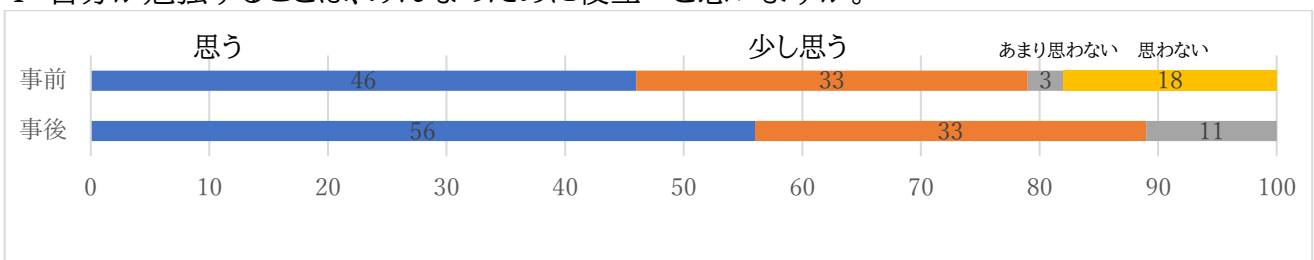
2 佐倉市は好きですか。



3 勉強することは心を育てることにつながると思いませんか。



4 自分が勉強することは、みんなのために役立つと思いませんか。



学習全体を通じて、学習意欲や佐倉市に対する郷土愛が高める様子を見ることができた。特に、事前のアンケートでは、佐倉市をあまり好きではないという児童が数名いたが、学習を通じて全ての児童が佐倉市に対して愛情をもつことができた。

「勉強することは心を育てることにつながると思いませんか。」と「自分が勉強することは、みんなのために役立つと思いませんか。」という質問は、毎年行われている佐倉市学習状況調査の質問項目である。前者は「好学進取」、後者は「成徳作用」に関する質問となっている。佐倉市の先覚者を取り上げることで、「好学進取」「成徳作用」に対する思いや受け継がれてきことを知り、自分自身も将来人の役に立ちたいと思う児童が多くいた。また、もっと調べたいという意欲をもつ児童も多くいた。

10 成果と課題

〈成果〉

- 地域教材を軸として学習を行うことで、児童の意欲を喚起することができ、地域に対する興味や愛情を育むことができた。
- 視点を明確にし、交流する機会を多様に設けることで、児童が多様な表現方法を身に付け、より学習に取り組もうとする意欲を見ることができた。

〈課題〉

- 本来、本校では「佐倉順天堂記念館」を中心とした佐藤泰然の学習は、4年生で行う学習である。今回、3年生で学習したことで次年度の学習についてどのように行うかカリキュラムマネジメントしていく必要がある。
- より地域のことを理解し、地域に愛情をもった人材を育成するために、各学年の佐倉学に関する内容を見直し、繰り返し学習することでより多くの佐倉学に触れることが必要である。
- 「佐倉順天堂記念館」は、白銀小学校の学区ということなので、白銀小学校の児童に対しては効果的に活用することができたが、佐倉市内の小学校全体で活用できる内容ではなかった。そのため、佐倉市内における地域性も考慮した学習方法が必要である。



『ふるさと佐倉の歴史』佐倉市教育委員会編集

〈参考文献〉

- 文部科学省. 小学校学習指導要領(平成29年度告示)解説 社会編. 日本文教出版, 2018
- 佐倉市教育委員会. 佐倉学副読本 ふるさと佐倉の歴史. 佐倉市教育委員会, 2008
- 佐倉市教育センター. 佐倉学道徳副読本 佐倉の道徳. 佐倉市教育委員会, 2011
- 日本医史学会. 佐倉順天堂—近代医学の発祥地—. 日本医史学会, 2012
- 佐倉市教育委員会. 佐倉市郷土の先覚者 佐藤泰然. 佐倉市教育委員会, 1991